

グループ概況

ブリヂストンの事業ポートフォリオ

ブリヂストンの事業ポートフォリオは、コア事業であるプレミアムタイヤ事業、成長事業であるソリューション事業、新たな種まきとしての探索事業と、化工品・多角化事業の4つで構成されています。ブリヂストンの強みを活かし、それぞれの特性に合わせて事業を推進することにより、ビジョン「サステナブルなソリューションカンパニー」への変革を加速しています。

プレミアムタイヤ事業

コア事業

断トツ商品を「創って売る」

- ・乗用車用タイヤ
- ・トラック・バス用タイヤ
- ・スペシャリティ系タイヤ：
鉱山・建設車両用、航空機用、
農業車両用、モーターサイクル用 など



ソリューション事業

成長事業

お客様が「使う」段階で 断トツ商品の価値を増幅

- ・生産財系 BtoB ソリューション
 - 鉱山ソリューション
 - 航空ソリューション
 - トラック・バス系ソリューション
- ・小売サービスソリューション



探索事業

「新たな種まき」

社会価値の提供／ サステナビリティを中核に

- ・リサイクルタイヤを原材料に「戻す」
- ・AirFree® (エアフリー)
- ・月面探査車用タイヤ
- ・ソフトロボティクス など



化工品・多角化事業

シャープにコアコンピタンス が活きる領域にフォーカス

- ・油圧・高性能ホース、ゴムクローラ
- ・樹脂配管、免震ゴム
- ・スポーツ(ゴルフボール など)
- ・サイクル など



財務・非財務ハイライト (2024年12月31日時点)

ブリヂストンは、約130の生産・研究開発拠点をもち、150を超える国と地域でプレミアムタイヤ事業(コア事業)、ソリューション事業(成長事業)、探索事業、化工品・多角化事業などを展開しています。



2024年概況

連結売上収益

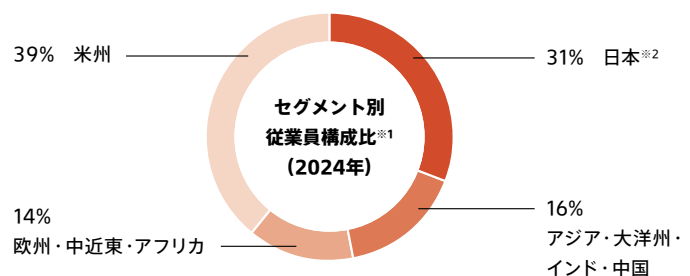
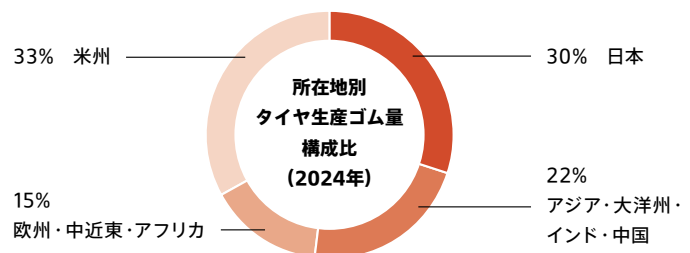
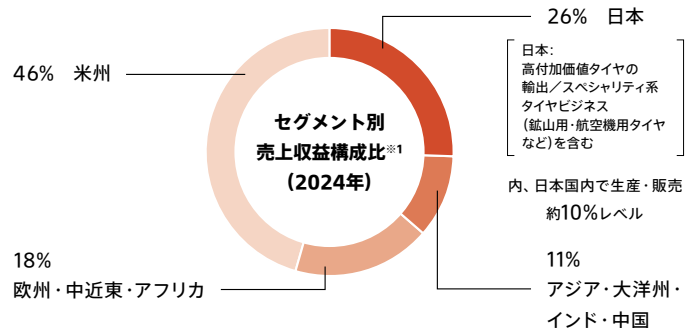
4兆4,301億円

連結タイヤ生産ゴム量

148万トン

連結従業員数

121,464名



※1 売上収益、従業員数の地域区分は、有価証券報告書におけるセグメント区分に準拠しています。

※2 日本の従業員数には、有価証券報告書における「日本」「その他」「全社(共通)」セグメントを含んでいます。



持続的な価値創造の源泉

ブリヂストンは、「最高の品質で社会に貢献」という不変の使命のもと、変わりゆく社会のニーズに対応し、一人ひとりの日本、アジア、そしてグローバルへと事業を拡大・進化させる中で培ったブリヂストンDNA―「品質へのこだわり」「現物

Bridgestone 1.0: 創業

1931年 創立

ブリヂストンは、1931年に福岡県久留米市で創立されました。20世紀初頭、自動車産業の発展とともに、欧米のタイヤメーカーが隆盛しましたが、日本では英米系の技術や資本に頼っている状況でした。このような状況下で、創業者石橋正二郎は、日本におけるモータリゼーションを確信し、「日本人の資本で、日本人の技術によるタイヤの国産化」に挑戦しました。様々な技術的挑戦を経て、1930年に第1号の「ブリヂストンタイヤ」が誕生し、1931年3月1日に福岡県久留米市で「ブリヂストンタイヤ株式会社」が設立され、現在のブリヂストンへとつながっています。創業当時から海外進出を視野に入れ、商品イメージや海外市場での通用性を考慮して、創業者の姓を英訳し、語呂を良くして社名・商標名「ブリヂストン」としました。

その後、福岡県久留米市から日本全体へ事業を拡大しながら、創業翌年にはアジアへも輸出を開始しました。1950年代からはアジア諸国へ進出し、日本、アジアの人々の安心・安全な移動、モータリゼーションを支えました。1980年代には、ファイアストーン社のナッシュビル工場を買収し、米国本格進出への布石を打つなど、グローバル拡大を推進することで、マルチナショナル(多国籍)企業へと進化しました。



第一号タイヤの誕生

安心・安全な移動や暮らしを支え続けています。創業の地である福岡県久留米市から、現場「お客様の困りごとに寄り添う」「挑戦」や強みは、**価値創造の源泉**となっています。

1968年 デミング賞実施賞受賞と社是「最高の品質で社会に貢献」の制定

「デミング賞実施賞」受賞

1960年代、ブリヂストンは、経営の近代化と品質管理活動を推進し、1964年には、その活動を独自に「デミング・プラン」と名付けました。基本思想である「良い品質の製品は、良い体質の会社から生まれる」、基本動作である「PDCA」「なぜなぜ分析」「標準化」「データでものを言う」「重点管理を行う」の5つの合言葉を軸に、全社的な企業体質改善の取り組みを開始し、1968年、卓越した品質管理を実施している企業に与えられる「デミング賞実施賞」を、タイヤ業界で初めて受賞しました。現在も、ブリヂストン独自のデミング・プランに沿った活動を、グローバルで推進しています。

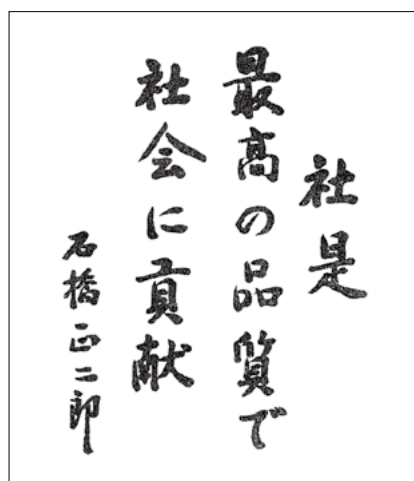


デミング賞実施賞メダル

デミング賞実施賞を受賞(1968年)

社是「最高の品質で社会に貢献」

デミング賞実施賞を受賞した同年に、社是として「最高の品質で社会に貢献」を制定しました。「永続する事業とは、社会に貢献する事業である」という創業者の事業観が反映され、現在のブリヂストンにおいても、不変の使命として受け継がれています。



社是制定(1968年)

Bridgestone 2.0: 第二の創業

1988年 ファイアストーン社買収 — グローバルカンパニーへ

ブリヂストンは、1988年の米国ファイアストーン社の買収を契機に、グローバル化へと足を踏み出しました。これを、第二の創業と位置付けています。買収当時、ファイアストーン社は米国第2位のタイヤメーカーであり、買収額約26億ドル(約3,300億円)は当時の日本企業の海外企業買収額として最大の規模でした。この買収によりブリヂストンはタイヤ業界の世界シェアTOP3に名を連ねることとなりました。

ブリヂストンとファイアストンの融合を通じて、グローバルカンパニーへと進化しました。

その後、2008年には米国を拠点とするリーディングリトレッド*カンパニー「バンダグ社」、2019年には欧州のリーディングデジタルフリートソリューションカンパニーであるWebfleet Solutions社を買収し、ソリューション事業推進への布石を打ちました。

※ リトレッド: お客様が使用されたタイヤのすり減った表面(トレッド)部分のゴムを貼り換え、再び使用可能となったタイヤを提供

Firestone



ファイアストーン社買収(1988年)



タイヤメーカーとしての「原点」—— ブリヂストンモータースポーツ

ブリヂストンDNA「品質へのこだわり」「現物現場」「お客様の困りごとに寄り添う」「挑戦」を体現し、タイヤメーカーの「原点」であるモータースポーツ活動は、ブリヂストンをグローバルブランドへと押し上げ、コア事業であるプレミアムタイヤ事業の基盤となっています。2023年に60周年を迎えたモータースポーツ活動は、1963年の第1回日本グランプリから始まり、1980年代にはヨーロッパF2などグローバルへ拡大し、トリブルクラウン、世界3大レースといわれる、Formula 1®モナコGP、INDY500、ル・マン24時間レース全てに挑戦しました。また、1995年に米国伝統のレースであるINDYCAR® SERIESに復帰したことは、買収後も経営危機にあったファイアストンにとって、ファイアストンブランドの再生を象徴するものとなりました。ファイアストンは、1911年の最初のINDY

Raceで勝利したタイヤメーカーです。ブリヂストンブランドにおいては、1997年に、世界最高峰のモータースポーツであるFormula 1®に参戦しました。Formula 1®参戦は、ビジネス面においても欧州主要プレミアムカーメーカーとのビジネス獲得などに寄与し、現在のプレミアム戦略の基盤となっています。また、世界最高峰のレースという極限の状況において、クルマ、ドライバー、チームの勝利、挑戦を支え続けたことは、タイヤメーカーとして技術力を磨くだけではなく、タイヤオペレーション、メンテナンス、ビジネスを含めた人財育成など、グローバル企業としての総合力を磨くことができました。この「極限への挑戦」は、ブリヂストンにとって今後も、経営やブランドを進化させる原動力であり続けます。

ブリヂストンモータースポーツ活動 グローバルジャーニー

1960s



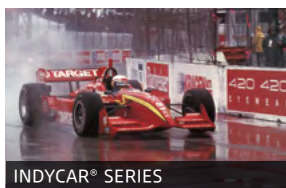
1963 第1回日本グランプリ

1980s



1981 ヨーロッパF2参戦

1995~



INDYCAR® SERIES

2002~2015



MotoGP™参戦
2015 Round 18 Valencia



1976 F1® 日本グランプリ参戦

1970s



1991 DTM参戦

1990s



ル・マン24時間耐久



Formula 1®参戦

1997~2010

FIA世界選手権レースへ参戦

このように、長い歴史の中で培われてきたブリヂストンDNA「品質へのこだわり」「現物現場」「お客様の困りごとに寄り添う」「挑戦」や、プレミアムタイヤ事業基盤は、ブリヂストンの持続的な価値創造の源泉です。